

東大見学会

私は今回のディレクトフォースで三菱商事の本社に行かせて頂きました。私は将来の夢が決まっているので、正直他の仕事にあまり関心がありませんでした。だから、3人の社員の方々からそれぞれの仕事の話聞いたとき、とても新鮮で興味深かったです。どの方々も皆自分の仕事に誇りをもって、生き生きしていてとても良いなと思いました。生活産業グループの方は、海外や人々との接点を持ちたくてこの会社に入ったと聞いたとき、少し驚きました。それは、三菱商事という大企業の中でもトップの本社で働く人々は、どのような高い志を持ってその会社に入ったのだろうかかと疑問に思っていたからです。でも逆に、そんなに堅苦しく考える必要も無いことに気がつきました。この世の中にはまだまだ私の知らない職業がたくさんあります。あまり自分の視野を狭めず、もっと広く見て考えいけばいいんだなと思いました。金属グループの方は、実際に全く環境の違う国に行った人だったので、国際社会のなかでどのように生きていくか、少しヒントがもらえたような気がしました。それは、途上国とのビジネスでは地域との共生が必要不可欠、世界の中の日本を意識、自分と違うことを受け入れるというようなことです。どこの国の人だろうと、互いのことを知り、認め合い、協力して仕事をおこなっていく。これが簡単そうで難しい理想の形だと思いました。また、やるかやらないか迷ったらダメもとても挑戦してみる、この言葉も心に響きました。学生のうちは失敗をしても許されるのだから、様々なことをやってみたほうがいいとも言っていました。私はなかなかやると決める勇気が出ないのですが、次に何かに挑戦してみたくになったら、この言葉を思い出して一步を踏み出せるようになりたいです。最後は環境 CRS 推進部復興支援チームの方で、この方の仕事の一つに、福島プロジェクトというものがありました。これは、福島第一原発が原因である風評被害によって売れない果物を、酒やワインに加工し、ワイナリーを作って売ろうというものです。社員の方はこの仕事の鍵を、地元との信頼関係だとおっしゃっていました。これは金属グループの方との話と共通しているところがあり、とても重要なことなんだなと改めてわかりました。

3人の方々の話が終わった後、社員の方との交流がありました。1人目の方は始めに、先人達が受け継いできたもの・心を若い世代の人がしっかりと受け継いでいくことができるのか、という事が心配だと言っていました。今の私に確かなことはいえませんが、自分なりに社会の役に立てよう努力していきたいなと思いました。また若い頃の話をしてくれて、やっておいて良かったことを教えてくれました。それは、物事を考えるくせをつけることです。これは、わからない数学の問題を長時間考えたことによって身についたそうです。今やっていることがそんなことにつながるのかと驚きました。そして粘り強くやり続け、諦めないことも大事だと言っていました。ほかに、外国で働いていたときの経験も話してくれて、外国で仕事をする上で言葉はとても重要ですが、それよりも人柄が大切だと言っていました。傲慢な人には誰もついていかず、皆付き合っていくとしたら人柄の良い人についていくと思うので、とても納得できました。2人目の方はまず、自分で目標を立ててそこに向かってがんばりなさいと言っていました。それは目標が自分の原動力になり、自分を高めてくれるからかなのではないかと思いました。また、ありのままの自分をだしていけば、世界が広がるとも言っていました。二人とも自分の経験を交えて話してくださったので、とても説得力があり、勉強になりました。

午後からの班での企業訪問は、防衛省に行かせて頂きました。そこでまず、私の将来の夢である航空管制官の方に質問をすることが出来ました。はじめに、航空管制官という仕事は一日に何千人という人々の命が自分にかかっているの、体を何よりも大事にすると書いていました。そして体を大事にすることは、心の健康にもつながると書いていました。先ほど述べた通り、これは人の命を預かる仕事なので、とてもプレッシャーがかかり、緊張感がずっと続きます。なので、一日に続けて六時間、休憩をはさんで八時間と決められています。ストレスがたまりやすいこの仕事は、心に余裕を持ち心も健康でいることが大事なのです。実際に働いている人から聞いたので、その言葉の重みを感じました。また心がけていることをお聞きしたら、パイロットの求めていることなど、相手の気持ちを考えることだと言ってました。私はこの言葉聞いたとき目から鱗が落ちるような気持ちでした。

それは、一日に何千人という人々の命を預かっている人の言葉が、私が今まで散々言われてきた言葉とまったく同じだったからです。普段耳にタコができるほど聞かされてきましたが、それは心の中にとどまることなく流れていきました。私は自分のことばかりで、相手のことをあまり考えずに言葉を発してしまったりとする人間のなので、このことから少しでも相手のことを考えるよう意識していきたいです。また、その重要な場面だけでは絶対に普段の自分になってしまうので、常日頃から心がけていきたいと思います。また、会話能力も必要だとおっしゃってました。航空管制官は主に電話が連絡手段なので、自分の伝えたいことが相手に伝わらなかつたり、逆に相手が何を求めているのかわからなかつたりとなかなか難しいそうです。私は電話にとっても苦手意識を持っているので、少しずつ克服していき、電話での会話がうまく出来るように頑張りたいです。このほかにも様々な質問ができ、とてもためになる充実した時間を送ることができました。

その後、防衛省の領地内にある市ヶ谷記念館に行き、「市ヶ谷台の歩み」という映像を見ました。1階の大講堂は、昭和9年に陸軍士官学校の大講堂として作られ、昭和21年の5月から昭和23年11月までの間、極東国際軍事裁判の法廷として使われました。あの有名な裁判がこの場で行われていたと考えると、なんとも不思議な気持ちになりました。また壁の模様やドアなどに、天皇のために細かい工夫がいくつもしてあり、驚くことばかりでした。

最後は自衛隊の展示室のようなところに行きました。行く途中に、自衛隊のための独身専用の寮や、床屋、コンビニ、スターバックス、吉野家などがあり、領地内から出なくても生活ができるのではないかと本気で思うほど、施設が充実してました。展示室には、自衛隊の制服やバッチ、船などの模型がありました。私も、航空管制官の印であるバッチをつけることができるように頑張ろうと思いました。

夕食後、現役東大生、東大院生に話を聞いたなかで一番印象に残った人は、来ていただいた中で唯一のOGでした。その先輩は学生日本酒協というものを立ち上げているという驚きの経歴を持った人でもありました。その方からは、立ち上げるまでの経緯から、ニューヨークへの日本酒の売り込み、勉強の仕方などとても貴重な話を聞かせていただきました。少し書くとすると、私はその中で、大学にいったただ勉強するだけではだめだという言葉が、強く印象に残りました。勉強をだけをするのは誰でもできる。しかしそれだけでは足りず、自分からなにか行動を起こさなければ社会からは評価はしてもらえない。大学生活をぼんやりとしか考えていなかった自分にとって、耳が痛い言葉でした。でもこれがきっかけで、少しでも大学生活を意識して考えることが出来るようになったので良かったなと思います。